

育む

はぐくむ

公益財団法人 北海道青少年育成協会 機関誌

令和6年(2024)
3月発行

No.32

公益財団法人北海道青少年育成協会

北海道の次代を担う青少年の健全な育成に寄与することを目的としています。



第1回こどもの未来をつくるこどもまんなかアワード「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞した、特定非営利活動法人E-LINKの活動（P4・6参照）

Contents

●開催報告

- 令和5年度 青少年育成運動活性化研究協議会 2
- 令和5年度 青少年育成地域懇話会（新十津川町・美瑛町） 3

●表彰報告

- 4

●「道民家庭の日」ほっとニュース

- 5

●青少年の社会参加

- 北海道青年活動元気づくりプロジェクト事業 6

●令和6年度 事業計画・予算の概要

- 7

●その他

- 講師派遣事業／北海道青少年基金事業のお知らせ
- 賛助会員の募集／LINE募集のご案内 8

開催報告

令和5年度 青少年育成運動活性化研究協議会

令和5年11月17日(金) かでる2・7(札幌市)

人にはそれぞれ事情がある、話を聞き、次につなげていく



道内各地で青少年育成運動に取り組んでいる方々を対象に、運動の現状や課題、今後の進め方について共通理解を深め、地域の青少年育成活動の活性化を図るため研究協議会を開催しています。

当日は、こども家庭庁長官官房総務課の岩崎企画官による基調講演と、3つの分科会に分かれて研究協議を行いました。

基調講演

演題「こども政策の課題と展望 -「こども未来戦略方針」を中心に-」

こども家庭庁長官官房総務課 企画官 岩崎 林太郎 氏



▼こども基本法の制定

今年1月に総理から指示を受けて、こども政策の強化についての検討を加速し、6月に「こども未来戦略方針」を取りまとめました。

日本では2030年代には若年人口が急減すると予測されており、それまでの6~7年が少子化傾向を反転できるかどうかのラストチャンスです。

今年5月に成立したこども基本法に基づき、国では「こども大綱」をこの年末には決定する予定です。それを参考に、道・市町村でも「こども計画」を策定し、地域の状況に応じた取組を進めていただきたいと思います。

▼こども・子育て政策の課題

子育てを取り巻く現状には、どのような課題があるのでしょうか。

- 1) 若い世代が結婚・子育ての将来展望を描けないこと
「いずれ結婚する」と考える未婚者の割合は長らく横ばいでしたが、今、大きく低下しています。
希望するこどもの数も減少傾向が続いています。
- 2) 子育てしづらい社会にあること
「こどもを生み育てやすいか」との問いに、日本では6割の親が「そう思わない。」と回答しています。
全世帯の3分の2が「共働き」で、男女とも出産後も仕事を続けることを希望していますが、「子育て」ができていません。日本の夫は家事をしないのです。
夫の家事育児時間が長いほど、第2子以降の出生割合が高い傾向が明らかになっています。子育てには夫の協力が極めて大事ということです。
- 3) 子育ての経済的・精神的負担感
35歳未満の妻の8割近くが「子育てや教育にお金がかかりすぎる」と感じており、「育児の心理的、肉体的負担に耐えられない」という意見もたいへん多いのが実態です。

▼こども未来戦略方針の全体像

子育て政策の課題を踏まえ、妊娠期から働くまでの間切れ目のない施策が必要です。

- 1) ライフステージを通じた経済的支援の強化
出産時の経済的負担の軽減や児童手当の拡充、高等教育費の負担軽減に取り組みます。
- 2) 全てのこども・子育て世帯を対象とする支援の拡充
保育施設の職員配置基準の改善や就労要件に係わらずに柔軟に利用できる通園制度を創設します。
- 3) 共働き・子育ての推進
育児休業給付率を引き上げ男性の育休取得を促進します。
- 4) こども・子育てにやさしい社会づくりの意識改革

「こどもまんなか応援サポーター」を広げています。国が認定するのではなく自称です。趣旨に賛同いただいて、できる行動をしていただく。それを発信し、広く参加を呼びかけていただく仕組みです。

北海道でも、道庁やコンサドーレ、札幌市の経済界などに参加いただいています。子育てのサポートも大事ですが、地域や職場で子育てを応援する「安心感」も大切だと考えています。

こども施策は「国が作ったのだから上手くいく」といった問題ではありません。国民一人ひとりが最も良いと思う行動をしていただくことが必要です。

私達も、自治体や地域で活動する皆様と協力しながら進めていきたいと考えています。



分科会

分科会は、3つテーマを設定し、話題提供の発表を基にグループ交流を行いました。地域での活動状況や課題等が話され、他の地域で活動している方々にとっては、共感できる部分や活動に反映できる情報があり、育成運動を考える貴重な場となりました。

第1分科会 「今こそ、地域活動をココでつなげる・広げる」

話題提供者：水谷あゆみ氏(NPO法人ezorock コーディネーター/社会教育士)
コーディネーター：森 健太郎氏(北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課)

第2分科会 「防災の知恵を学び、子ども達を守る一心と身体と環境とー」

話題提供者：斉藤 烈氏(厚真町教育委員会生涯学習課/厚真けん玉クラブ代表)
コーディネーター：畑中 久弥氏(北海道教育庁胆振教育局教育支援課)

第3分科会 「ヤングケアラーの実態を知り、私たちはどうすれば」

話題提供者：加藤高一郎氏(北海道ヤングケアラー相談サポートセンター長)
コーディネーター：佐藤 拓史氏(北海道教育庁石狩教育局教育支援課)



令和5年度 青少年育成地域懇話会

専門家の講話を基に、地域の青少年育成関係者と住民の方々との意見交換を通して、子ども達を取り巻く問題について理解を深めました。今年度は新十津川町と美瑛町に協力をいただき開催しました。

新十津川町 「ネット社会と子どもの成長」

～親、子どもたちに関わる大人たちみんなで考えよう～

- ◆日時・場所 令和5年11月14日（火）・新十津川町総合健康福祉センター
- ◆共催 新十津川町青少年健全育成町民会議 新十津川町教育委員会
- ◆講話 講話 講話 講話 「ネット利用と子どもたちの望ましい生活習慣について」
～子どもの心とからだを育てるために大切なこと～
講師 子どもとメディア北海道 副代表 中谷 通恵氏



◆講話概要

- 小学低学年までは、目を合わせ意思疎通がとれる遊び、読み聞かせなど言語の遊び、五感を使ったり、汗をかく遊びが成長には重要。
- 中学生になると仲間外れになりたくない、承認欲求が強くなるなど同調意識が強くなる。そのような段階でスマホを持たせることについては、良い活用の仕方を示したり我が家のルールをしっかりと考えるなど大人の工夫が重要。
- 体験活動をすることで、心の健康や精神的回復力が高まる。家庭や地域でもネットに替わるリアルな社会体験の場が子どもの成長には必要。

◆意見交流 コーディネーター 北海道教育庁空知教育局教育支援課 是安 聡一郎氏

- 地域全体で、ネットから離れ、リアルな体験活動も必要だと感じた。
- 子どもが勉強や読書をしているそばで、最低限大人がゲームをすることは慎むべき。
- ネット利用について家庭・学校・地域全体でルールを決め、それをまず大人が守り、その姿を子どもに伝えることや、親が情報モラルの学習をすることが重要である。



美瑛町 「すべての子どもを地域で守り育てる予防教育」

- ◆日時・場所 令和5年11月29日（水）・美瑛町町民センター
- ◆共催・後援 美瑛町青少年健全育成協議会・美瑛町教育委員会
- ◆講話 講話 講話 「わたし」が「和足し」を育てるまち～時代のニーズにあわせた人づくり」
講師 美瑛町教育委員会管理課参事 目良 久美氏



◆講話概要

- 当町では、子ども一人ひとりに将来考えられる様々な困難について、個々のニーズに応じた支援や指導を行う「予防教育」に取り組んでいる。成長に合わせて「ことばの教室」「そだちの教室」「すだちの教室」を設け、学習の状況や悩みなどを保護者や支援者、学校担任の間で情報共有している。
- 子どもが何が苦手なのかを自分で理解することが始まり。そこから自分流の対処法を考え、周囲がそれを支援することで、子どもの自立に繋がっていく。
- ひとりの「わたし」が隣の「わたし」を見つけると「和」が生まれ、「和」を「足し合わせる」と「絆」ができる。「助けて」と声をあげたら「いいよ」と応えてくれる、そんな人を想う気持ちが溢れるまちになることを願っている。

◆意見交流 コーディネーター 北海道教育庁上川教育局教育支援課 石川 究氏

- 美瑛町では地域住民が講師となり、様々な教室や研修会でお話をしている。こういう地域住民のエネルギーをどんどん使っていくとよい。
- どの活動でも、子どもを一人ひとり認めていく、褒めていくことが大事である。そして子どもと一緒に考える、やってみる、失敗と一緒に体験してあげる事が大切。
- 子どもの成長や学びをみんなが共有していくことで、横の連携が出来る、様々な情報を共有することが、町のためにも、子どものためにもなる。



表彰 報告

特定非営利活動法人E-LINK(札幌市)が 第1回「こどもの未来をつくる こどもまんなかアワード」の 「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞

こども家庭庁が主催する「未来をつくる こどもまんなかアワード」において、NPO法人E-LINK(イーリンク)が、内閣府特命担当大臣表彰を受賞しました。

この表彰は、「こども基本法」の施行に合わせ、「こどもまんなか社会」の基本理念の実現に向けた取組を実施する、こどもや若者自身で構成する団体・子育て家族を支援する団体等を表彰し、こうした活動への国民の理解を増進させるとともに、活動をより活性化させることを目的として、本年度から新たに設けられました。

E-LINKは、札幌市内創成東地区で、こどもの学びや遊び、生活をサポートする学童保育やフリースクールを中心に、こどもの健全育成の活動を行っている団体です。「なまらツナガル トカイナカ」をミッションに掲げて、地域の方々とつながりながら、こどもがさまざまなコトに出会う環境を作ることで、自主性を尊重し、こどもが楽しめる事業を幅広く展開していることが高く評価されました。

昨年11月27日に総理大臣官邸で行われた表彰式で、加藤鮎子特命担当大臣から日向代表理事に表彰状が授与され、1月12日には鈴木直道知事に受賞を報告し、知事から今後の取り組みについて激励を受けました。



佐藤 英道 氏(大樹町)が、「全国青少年育成県民会議連合会表彰」を受賞



北海道青少年育成運動推進指導員だった佐藤英道さん(写真:左)が、全国青少年育成県民会議連合会が主催する「全国青少年育成県民会議連合会表彰」を受賞しました。

この表彰は、青少年の健全育成に顕著な活動を行った指導者を顕彰するもので、佐藤さんは、子どもや教育に関する電話相談窓口「ロバの小屋」の運営や子ども110番ウォークラリーの実施など、長年にわたる子どもの安全を守り育てる環境づくりの活動が評価されての受賞となりました。

佐藤さんには、昨年12月12日に大樹町教育委員会の沼田教育長から表彰状が伝達されました。

北海道高校生ネットワークBLOSSOMが、「北海道青少年顕彰」を受賞

防災ボランティア活動などを通して地域づくりに貢献する優れた活動に取り組む青少年を知事が顕彰する「北海道青少年顕彰」を北海道高校生ネットワークBLOSSOM(ブロッサム)が受賞しました。

「世界津波の日2019高校生サミット」をきっかけに令和元年に設立以来、メンバーを替えながら、土のう袋を寄付する台風の被災地支援のほか、被災者を招いての講演会や災害時に役立つグッズの紹介などの災害啓発イベントの開催などで、地域住民の防災意識を高める活動が評価されました。

昨年11月20日に、石狩振興局で行われた贈呈式にはメンバー6名が出席し、増田振興局長から賞状と記念品が贈られました。

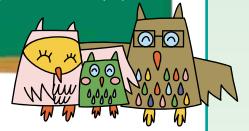


北海道代表 三浦 かな さんが、少年の主張全国大会「審査委員会委員長賞」を受賞



昨年11月12日、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)において、第45回少年の主張全国大会が4年ぶりに会場で開催されました。

秋篠宮佳子様が御臨席された全国大会には、5つのブロック大会を勝ち抜いた12名が出場し、北海道代表の三浦かなさん(下川町立下川中学校3年)が堂々とした発表で、「審査委員会委員長賞」を受賞しました。



「道民家庭の日」普及啓発のため、小中学生による家族の大切さが伝わる「絵画コンクール2023」を開催しました。

家族ふれあい優待制度の協賛店に「ウポポイ」が加入しました。

「道民家庭の日」絵画コンクール2023を開催しました

入賞作品の決定

「道民家庭の日」普及啓発を図るため、家族の団らん、食卓、家事や仕事の手伝いをしている様子など家族のふれあいをテーマにした「道民家庭の日」絵画コンクール2023を開催し、入賞作品が決定しました。

全道の小・中学生から300点(71校)の心温まる作品応募があり、審査の結果、小学生の部、中学生の部の最優秀賞(道知事賞)、優秀賞(道教育委員会教育長賞)、優良賞のほか、キューピー株式会社様のご協力により、特別賞(キューピー賞)が設けられ、両部門あわせて、36点の入賞作品を決定しました。



最優秀賞(北海道知事賞)
「バラ園でピクニック」

帯広市立柏小学校5年 村山 夕樹乃さん



村山さん

家族で行ったピクニック。バラの花がきれいに見えるようにかきました。最優秀賞が取れてうれしかったです。またピクニックに行きたいです。

海に入った時少し怖くて不登だったけど、お姉ちゃんと一緒に泳いでいると楽しくて、その怖さや不登を忘れて楽しく遊べたのでよかったし、うれしかったです。



菊池さん



最優秀賞(北海道知事賞)

「みて、みて、泳いでるっしょっ！」
北斗市立浜分中学校2年 菊池 美穂さん

入賞作品展を道内各地で開催

札幌市をはじめ全道9箇所が入賞作品展を開催しました。

11月4日(土)に札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)で開催した作品展には約400名が来場し、入賞者やそのご家族も訪れ、大勢の方に子ども達の作品を楽しんでもらいました。12月から3月にかけては、8箇所の振興局等でも入賞作品展が開催されました。



札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)



十勝総合振興局(庁舎ロビー)

2024年カレンダーを発行

入賞作品を紹介したカレンダーを発行。全道の小中学校・児童館・関係機関に配布しました。



ウポポイ(民族共生象徴空間)が「道民家庭の日」協賛店に加入

2020年7月に白老町に開業したウポポイ(民族共生象徴空間)が、昨年10月から家族ふれあい優待制度の協賛店に加入しました。ウポポイは、アイヌ民族の文化・歴史を展示する「国立アイヌ民族博物館」、伝統的な歌や踊りを鑑賞できる「体験交流ホール」、刺繍や木彫などの手仕事を間近で体感できる「工房」及び伝統的な生活空間を体感できる「伝統的コタン」などで構成される、アイヌ文化の発信拠点です。

当優待制度の優待券とウポポイ入場券を、エントランス棟「総合案内窓口」で提示いただくと、『ウポポイ記念品』がプレゼントされます。(1家族1枚まで)ぜひ、ご家族でウポポイでの楽しいひとときを過ごしていただきたいと思います。



北海道青年活動元気づくりプロジェクト事業

青少年の 社会参加

青年が魅力ある地域づくりに主体的に参画し、自らの能力開発・向上と仲間づくりを進め、地域活動の担い手として成長し、地域の活性化・元気を生み出すことを目的に助成金を交付し、活動を支援しています。全道の青年団体・グループから事業（企画）を公募し、有識者による審査を行い、令和5年度は次の4事業を選定しました。

特定非営利活動法人 E-LINK



子どもも大人も地域も「なまら、ツナガル」をミッションに掲げ、都会の中の小さな田舎“トカイナカ”な地域づくりを目指し、平成29年に設立しました。学童保育やフリースクール・プレーパーク・地域食堂など札幌創成東地域を中心に活動を展開しています。

事業名 なまらツナガル！トカイナカプロジェクト

実施期間 2023年9月～2024年3月

創成東地域でお寺や商店などの協力をいただき「秋まつり」や「雪あかり」などを開催しました。

子どもや子育て世代と地域住民・事業者の方々が交流することで、“トカイナカ”なコミュニケーションを生み、地域の活性化にもつながりました。



Climate Change Action



若者達に気候変動をもっと身近に感じてもらうため、1人1人ができる“Climate Change Action”（気候変動対策）を共に見つけていく事を目的に、2023年に設立し活動を始めています。

事業名 気候変動をもっと身近に感じよう

実施日 2023年8月19日／余市エコビレッジ

「気候変動」に関心を持つ高校生や大学生を対象に、実際に森林へ足を運び「気候変動」に関するフィールドワークを行いました。

森の炭素濃度や樹高・樹齢の測定、野菜の収穫体験、講師による気候変動の講話などを通じ、森が果たす役割を学び、自ら実際に体験する大切さを伝える事が出来ました。



特定非営利活動法人 ezorock



平成13年に野外音楽フェスのごみ問題の解決から活動が始まり、その後、都市交通、子どもの体験活動、エネルギー、防災、関係人口などの活動を展開し、道内のNPO、市町村、企業等と連携し、若者が自ら考え行動しながら地域の課題に取り組む場の提供をしています。

事業名 Hokkaido Youth Sessions GREEN DAY

実施日 2024年3月9～10日（2日間）

社会問題を知るきっかけ作りと青年層のつながりの強化を目的に、会場とオンラインで開催しました。多種多様なテーマでの12分科会に道内外からのべ約100名の若者が参加し、身近な社会問題を自分事として受けとめられるきっかけを提供しました。



新冠町青年団体連絡会議



町内にある5つの青年団の相互連携を図るための組織として昭和57年に設立し、住みやすいまちづくりに寄与する地域活動の推進を目的に、様々なイベントの企画や運営を行っています。

事業名 にかっぷふるさと盆踊り2023

実施日 2023年8月12日／新冠町役場駐車場

子どもからお年寄りまで楽しく参加できる夏の風物詩「ふるさと盆踊り2023」を開催しました。

当日は、当町のレ・コード館で所蔵している初版レコードを活用した盆踊りのほか、縁日や動物ふれあいコーナー、お菓子まきなど町民が楽しく元気になる催しが多数あり、今後の町の活性化につながりました。



令和6年度 事業計画の概要

1 青少年育成住民運動の促進

青少年育成住民運動を推進するため、全道に推進指導員(238名)を配置、地域関係者との合同会議や懇話会を開催するなど、地域が一体となった活動を促進します。

■青少年育成地域合同会議

令和6年5月中旬～6月中旬に
道内14箇所で開催(道と共催)



■青少年育成地域懇話会

知内町(渡島)・標茶町(釧路)

2 青少年を社会全体で育成・支援する環境づくりの推進

啓発活動を通じ、青少年の育成についての理解を深め、青少年の健やかな成長を社会全体で取り組む環境づくりを進めます。

■北海道青少年育成大会

日程 令和6年9月6日(金)
場所 札幌市(かでの2・7)
内容 「少年の主張」全道大会
基調講演、各表彰式など
(道、国立青少年教育機構と共催)



■青少年育成運動活性化研究協議会

日程 令和6年11月8日(金)
場所 札幌市(かでの2・7)
内容 基調講演、各分科会協議



■明るい家庭づくり道民運動

- ・家族ふれあい優待制度の普及(協賛店の拡大)
- ・「道民家庭の日」絵画コンクールの実施
- ・「道民家庭の日」街頭啓発の実施(JR札幌駅ほか)
- ・各イベントへの参加によるPR活動



■「北海道青少年のための200冊」

青少年に優良図書を普及するため、「200冊」を選定し、目録や啓発ポスターを道内の小・中・高等学校、図書館などに配布



■青少年育成関係団体懇談会

日程 令和7年2月上旬
場所 札幌市
内容 話題提供、活動状況発表、意見交流など
(16団体・6機関を予定)

3 青少年の主体的な社会参加・体験活動の促進

青少年が自立した社会人として成長するよう、青少年の社会参加・体験活動を促進し地域の実践活動の支援に取り組みます。

■北海道青少年基金事業

青少年の社会参加、体験活動等を促進するため、青少年基金の運用益を活用し、交付事業、顕彰事業を行うほか、募金活動を行い基金の拡充を図ります。



・交付事業

交付額：5万円コース } 予算額 225万円
交付額：7万5千円コース } 30～35団体を予定

青少年団体等が行う各種事業(交流・体験活動、社会貢献活動、文化・スポーツ振興活動、国際交流など)に対し、助成金を交付。

詳細は8ページをご覧ください。

・顕彰事業(2件を予定)

他の範となる優良青少年、団体を顕彰。

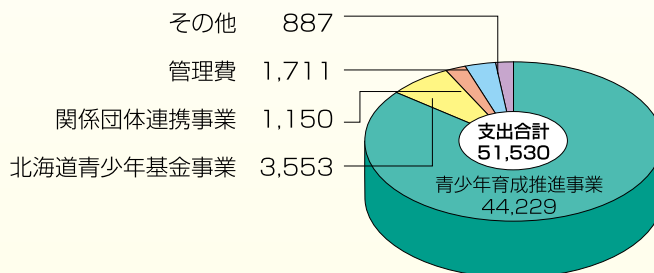
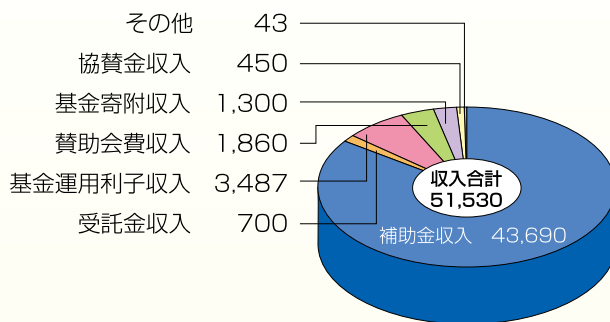
■「青年活動元気づくりプロジェクト」事業

・助成事業(4事業を予定)

青年が地域の中核的人材や担い手として成長し、地域の活性化・元気を生み出すことを目的に、青年団体等が行う地域活動に、助成金を交付。



令和6年度 予算の概要



単位：千円

令和6年度の年間スケジュール、事業計画及び予算の詳細につきましては、当協会のホームページでご確認いただけます。

全道各地の青少年育成関連研修会に講師を派遣 —講師派遣事業—

青少年育成に関する情報を全道各地にお届けすることを目的に、各（総合）振興局、市町村、地域・育成団体などが主催する研修会に、当協会の専門指導員を派遣する「講師派遣事業」を実施しています。

- ◆ **諸経費** 交通費・謝礼は不要です。
- ◆ **内容** ご相談の上、決定します。ご希望の内容をお聞かせください。
例) SNSに起因するトラブルについて
複雑化する青少年を取り巻く環境について
地域の大人や育成委員が果たす役割について
- ◆ **令和5年度実績**
 - 札幌市拓北・あいの里地区青少年育成委員会研修会
「子どもや学校の現状と育成委員として今後の活動を考える」
 - 札幌市新発寒地区青少年育成委員会研修会
「SNSに夢中になる子どもたちの現状と課題」
 - 後志管内青少年育成運動推進指導員協議会研修会（写真：上）
「複雑化する青少年を取り巻く環境」
 - 旭川市青少年補導員及び警察補導員合同研修会（写真：下）
「SNSに夢中になる子どもたちの現状と課題」
 - 空知青少年育成運動推進指導員会研修会
「ネット・スマホ社会における青少年との関わりについて」
 - 浦幌町社会教育委員の会議
「青少年教育に関する課題について」



令和6年度 北海道青少年基金【交付事業】の募集

【募集期間】

令和6年4月～6月上旬

【交付額・交付団体数】

総額225万円（30～35団体を予定）

事業費の1/2を助成（5万円コース・7万5千円コース）

【申請方法等】

当協会ホームページに

令和6年度 北海道青少年基金—助成金交付の手引き—
を掲載しますのでご確認ください。

【交付事業実績報告】

令和5年度の交付事業実績報告を、当協会のホームページに随時掲載しています。

活動や申請の際にお役立てください。



賛助会員のご案内

道内の青少年育成運動を幅広く推進していくため、当協会の活動に賛同していただける賛助会員を募集しています。

現在、普通賛助会員45名・51団体、特別賛助会員143団体、合計239団体・個人の方にご入会いただいています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

会員の種類及び会費

(1) 普通賛助会員

個人 一口 1,000円 青少年団体 一口 5,000円

(2) 特別賛助会員

法人及び地方公共団体 一口 10,000円

★賛助会員の皆様には、機関誌や講演録集をお送りいたします。

LINEのご案内

育成協のイベントや行事情報など、最新情報をいち早くお届けします。

ぜひ、友だち追加をお願いします！



友達追加方法

追加方法①

LINEアプリの「ホーム」→
「友だち追加」から、右のQR
コードを読み取る



追加方法②

LINEアプリの「ホーム」→
「友だち追加」→「検索」から、
IDで

@972dprpx

と入力し検索

優待券の使い方（コピーも可）

- 家族ふれあい協賛店や施設にこの優待券をお持ちになると料金の割引や各種サービスが受けられます。
- 道民で、18歳未満のお子様を含む家族の方に限ります。（対象人数は各店・各施設で異なります。）
- ご来店・ご来場の際に提出してください。



ほーほーくんの紹介

「道民家庭の日」イメージキャラクターのほーほーくんは、緑色のかわいい子どものフクロウです。道民の皆様へ家族の絆を深めてもらえるよう「道民家庭の日」のPR活動などで大活躍しています！

令和6年3月発行

公益財団法人 北海道青少年育成協会

札幌市中央区北5条西6丁目1番地23 第二道通ビル

TEL011-231-6451 FAX011-231-6457

Eメール youth@ikuseikyō.jp

道民家庭の日
家族ふれあい

優待券

優待日
毎月第3日曜日
（※営業日などのところもあります。）

2025年3月31日まで有効

公益財団法人 北海道青少年育成協会



ホームページのご案内

<http://www.ikuseikyō.jp/>



機関誌「育む」のご案内

バックナンバー